府中市立府中第三小学校及び府中第六小学校改築に伴う
基本計画及び基本・実施設計業務委託に関する
公募型プロポーザル（２次審査）報告書

令和３年１月

府中第三小学校及び府中第六小学校改築事業設計者選定委員会

府中市では、老朽化対策の早期改築着手校である府中第八小学校及び府中第一中学校に続く、次期実施校としての位置づけとなる府中第三小学校及び府中第六小学校の基本計画及び基本・実施設計業務に着手するに当たり、設計者の選定については、委託金額の多寡だけでなく、「府中市学校施設改築・長寿命化改修計画」を踏まえた上で、それぞれの学校の特色や敷地条件に合わせた学校づくりを行うことができる、柔軟かつ高度な発想力や設計能力を有し、かつ２校を同時に設計できる組織力を有する設計者を選定するため、早期改築着手校と同様に、公募型プロポーザル方式を採用することとしました。

府中第三小学校及び府中第六小学校改築事業設計者選定委員会は、その業務の受注候補者を選定することを目的に設置され、府中市教育委員会から、「府中市立府中第三小学校及び府中第六小学校改築に伴う基本計画及び基本・実施設計業務委託の受注候補者の選定について」の諮問を受けました。

本選定委員会では、１２月１８日に開催された、府中市立府中第三小学校及び府中第六小学校改築に伴う基本計画及び基本・実施設計業務委託に関する公募型プロポーザルの２次審査において、１次審査を通過した提案者からの提出書類を基に、プレゼンテーション及び質疑応答を実施した後、選定委員による公平・公正な採点に基づき、第１受注候補者及び第２受注候補者を選定し、教育委員会に答申を行いました。

本報告書は、２次審査の審査結果、本選定員会からの総評及び第１受注候補者・第２受注候補者に対する寸評について、「府中市立府中第三小学校及び府中第六小学校改築に伴う基本計画及び基本・実施設計業務委託に関する公募型プロポーザル（２次審査）報告書」としてまとめ、報告するものです。

令和３年１月２９日

府中第三小学校及び府中第六小学校改築事業設計者選定委員会

委員長	田中　友章
副委員長	池澤　龍三
委員	飯沼　健一
委員	鈴木　朗之
委員	堀江　将司
委員	松下　雄太

１　審査概要

府中市立府中第三小学校及び府中第六小学校改築に伴う基本計画及び基本・実施設計業務委託に関する公募型プロポーザルの選定経過としては、府中市教育委員会事務局において、令和２年１０月９日から１０月３０日までの期間で公募した結果、１０者から応募があり、令和２年１１月６日に、府中市役所関係課長６名で構成される内部選定委員会により、１次審査を実施しました。

１次審査では、「組織力、設計事務所の実績」、「管理技術者の経歴及び実績」、「本業務のチーム体制」、「本業務の実施方針」について、各提案者から提出のあった書類を内部選定委員会委員が採点し、その採点結果で合計点の高い上位５者を、１次審査通過者として選定しました。

２次審査は、本選定委員会を開催し、１次審査を通過した５者から、各提案者が提出した配置方針等の提案書に基づくプレゼンテーション・質疑応答を行いました。１次審査の採点結果は２次審査には引き継がず、府中市が定めた６つの審査項目について、各選定委員が採点を行い、その採点結果で合計点の高い上位２者を、合計点の高い順に、「第１受注候補者」、「第２受注候補者」として選定しました。

⑴　**開催日時**　令和２年１２月１８日（金）９時３０分～１６時４５分

⑵　**開催場所**　府中市役所北庁舎３階第５会議室

⑶　**進　　行**

９時３０分～１０時２０分　諮問書の伝達、正副委員長の選出、審査方法の説明など
１０時２０分～１１時００分　Ｆ社プレゼンテーション（２０分）、質疑応答（２０分）
１１時１０分～１１時５０分　Ｃ社プレゼンテーション（２０分）、質疑応答（２０分）
１３時００分～１３時４０分　Ｄ社プレゼンテーション（２０分）、質疑応答（２０分）
１３時５０分～１４時３０分　Ａ社プレゼンテーション（２０分）、質疑応答（２０分）
１４時４０分～１５時２０分　Ｂ社プレゼンテーション（２０分）、質疑応答（２０分）
１５時２０分～１６時４０分　委員の協議、採点、集計、第１・２受注候補者の決定
１６時４０分～１６時４５分　答申書の提出

※プレゼンテーション・質疑応答の順は、２次審査提出書類受付時に、くじによって決定。

⑷　**審査項目及び配点**

審査項目	点数
提案の企画力	２０点
実現性（コスト意識・スケジュール意識・チーム体制）	１５点
本業務への理解力	１０点
提案者の説得力及び柔軟性	２０点
学校づくりに関する知識及び支援能力	１０点
価格提案	５点
合計	８０点

⑸　**審査結果**

各選定委員が採点した各提案者の合計点は、次のとおりです。

※プレゼンテーション・質疑応答の順に掲載。

順番	提案者	合計点
1	Ｃ社	５９．６点
2	Ａ社	５５．４点
3	Ｄ社	５３．２点
4	Ｂ社	５２．４点
5	Ｆ社	４９．７点

上記の結果から、第１受注候補者、第２受注候補者を次のとおり、選定しました。

＜第１受注候補者＞　Ｃ社

選定理由：各選定委員が採点した採点結果で最も合計点が高い提案者であったため。

＜第２受注候補者＞　Ａ社

選定理由：各選定委員が採点した採点結果で第１受注候補者に次いで、２番目に合計点が高い提案者であったため。

２　総評

府中市立府中第三小学校及び府中第六小学校改築に伴う基本計画及び基本・実施設計業務委託に関する公募型プロポーザルの選考では、応募者や管理技術者の実績及び取組体制や取組方針の提案などにより１次審査を行った上で、技術提案書とプレゼンテーション及び質疑応答に基づいて２次審査を行った。

まず、技術提案のプレゼンテーションでは、その内容は「府中市学校施設改築・長寿命化改修計画」と、先行して改築事業を実施している早期改築着手校を参考にしつつも、それだけに留まらず、各社が提案課題ごとにそれぞれ工夫を凝らしたものとなっており、各提案は今後の改築事業において大変参考になるものであった。

続く質疑応答では、提案課題の内容だけでなく、受託した場合の設計チーム体制、ワークショップ開催など設計プロセス上の工夫、感染症への対応方法、児童・保護者アンケート等の捉え方、コストの配分、児童数の将来見込みが異なる各校の対応方法など、様々な事柄について各社の考え方を確認した。

そして、その後の協議では、全体を通して高得点を獲得した上位２社を中心として、各校の敷地条件における配置計画や、説明や質疑を通したそれぞれの対応力から、関係者の意見を聞いて応じる柔軟性があるかといった資質についての議論があった。

加えて、上記の選考プロセスにおいては、校舎の配置計画や仮設校舎の有無について、特定の手法にとらわれずに、各校の敷地の広さや形状、周辺の状況を考慮して、その状況に相応しいものを選択していくことが重要であるという認識が共有された。また、各々の配置計画案にはそれぞれの得失がある中で、以降の設計過程で対応を合わせて検討することが重要であることが確認できたことも一つの成果であった。

本選定委員会では、今回のプロポーザル方式による事業者選定に当たって、府中第三小学校及び府中第六小学校の設計提案の評価に加えて、今後長期にわたり、学校やそれを取り巻く地域の方々と、共に学校づくりを進めていくパートナーとして適しているかという視点を最も重視して、候補者の選定を行った。

そして、審査の結果、豊富な実績が裏付ける緊密な連携体制と、信頼に足る実行力を有するチーム体制を構築し、市や各校の状況を的確に反映した提案を実現できる能力と、丁寧で柔軟な設計対応力を有する点を高く評価して、第１受注候補者としてＣ社を選定するに至った。

今後、設計業務が本格化するにあたり、市と第１受注候補者が協力して取り組み、府中市学校施設改築・長寿命化改修計画が目指す学校施設の実現に向けて、改築事業が前進することを願っている。

３　第１受注候補者（Ｃ社）に対する寸評

⑴　提案の企画力

地域に開かれた学校という考え方のもと、各校の敷地条件や建築上の制約を考慮した上で双方に相応しい配置計画としている点、校舎と校庭の位置関係によって生じるデメリットへの対応策まで検討している点、児童数の増減への対応方法、児童・車両の動線を分離することなど、細部まで非常によく考えられた提案となっている点などを高く評価し、５者の中で最も高い評価となった。

⑵　実現性（コスト意識・スケジュール意識・チーム体制）

２校を同時に改築するためのしっかりとした組織力を有しており、同じ共同体で他自治体での実績もあることから、十分に連携を取ることができるチーム体制となっている点や、総体としてコストをかける部分と抑える部分のバランスが良い提案であることから、５者の中で最も高い評価となった。

⑶　本業務への理解力

府中市学校施設改築・長寿命化改修計画を細部に渡って深く理解し、早期改築着手校を参考にしつつも、今後、府中市の改築事業が連続していく状況を考慮した、これからのスタンダードとなるような提案をしていることなどから、５者の中でＡ社と並び最も高い評価となった。

⑷　提案者の説得力及び柔軟性

論理的でわかりやすい説明は説得力があり、質問への対応においても丁寧で適切な回答をしつつ、指摘に対して信頼感のある柔軟な姿勢が確認できたことから、学校関係者や地域の声を的確に計画へ反映させることが期待できる点を高く評価し、５者の中で最も高い評価となった。

⑸　学校づくりに関する知識及び支援能力

教育施設に関する専門性のある会社と、組織設計事務所の共同体で、多数の実績から学校改築にかかる技術力・知識を有していることが確認でき、両者の良い部分を活かすことができるチーム編成上の工夫がなされていることや、ワークショップに専門の担当者を配置し、女性若手建築家を２校共通コーティネーターに登用するなど対話型の設計を推進する工夫がされていることなどから、５者の中で最も高い評価となった。

⑹　価格提案

本業務の委託費について、市が示す参考上限価格の範囲内にあったが、他の提案者の提案額と比較して、５者の中で最も低い評価となった。

４　第２受注候補者（Ａ社）に対する寸評

⑴　提案の企画力

施設の複合化を中心に、児童数の増減に応じた今後の転用を意識した配置及び平面計画となっており、将来的にどのような施設となっていくのかがわかりやすい内容であることや、現状の学校及び早期改築着手校の良いところを取り入れた提案となっていることから、５者の中でＢ社と並び３番目に高い評価となった。

⑵　実現性（コスト意識・スケジュール意識・チーム体制）

２校を同時に改築するためのしっかりとした組織力を有しており、建築家事務所と組織事務所の協働体制により、各社の強みを活かした特色あるチーム体制を構築していることや、標準化することでコストを削減する部分、アクセントとしてコストをかける部分のバランスなどを高く評価し、５者の中で２番目に高い評価となった。

⑶　本業務への理解力

府中市学校施設改築・長寿命化改修計画を細部に渡りよく理解しており、設計課題としていなかったものの、国の動きを捉え、少人数学級についても言及するなど、本市の置かれた状況をよく考慮した提案となっていることから、５者の中でＣ社と並び最も高い評価となった。

⑷　提案者の説得力及び柔軟性

プレゼンテーションにおいては、ポイントを押さえた説明で施設のイメージがわかりやすく、質疑においても、各校の条件や地域特性等をよく理解した上での説明に説得力があったこと、指摘に対しても柔軟な対応力があり、地域との対話を丁寧に進めることが期待できる点などから、５者の中で２番目に高い評価となった。

⑸　学校づくりに関する知識及び支援能力

個性を発揮することができる会社と、最新技術の知識や全国での公共施設の実績に長ける会社との組み合わせにより、地域と対話する２校兼務の主任技術者のもと、それぞれが強みを活かして業務を行う体制としていることや、ワークショップやランドスケープには各分野の専門家を配置するなどチーム編成の工夫がなされている点を高く評価し、５者の中で２番目に高い評価となった。

⑹　価格提案

本業務の委託費について、市が示す参考上限価格の範囲内にあったが、他の提案者の提案額と比較して、５者の中で２番目に低い評価となった。